

■ J SPORTS 1、2、3、4の全4チャンネルに対して字幕を付与しています

(4チャンネル平均の字幕付与率：80%、J SPORTS4単独の字幕付与率は99% ※指針の普及対象番組における令和3年度実績)



■ 字幕放送の運用体制

スポーツ番組の内容、字幕制作期間に応じて2つのチームで対応しています

生字幕チーム(音声認識方式)

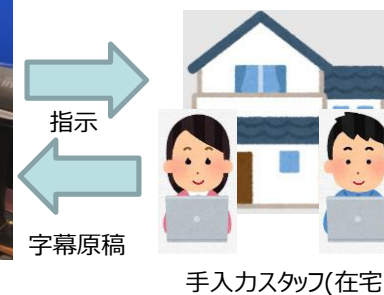
手起こしチーム



- ・リスピーカーによる音声認識方式生字幕制作
- ・運用体制(1番組 4時間程度まで)
 - リスピーカー : 1名
 - 文字修正者 : 1名
 - ディレクター(監督者) : 1名
- ・LIVE放送や納期の早い番組を音声認識方式で対応(全体の7割)



- ・ディレクターのみ出社(テレワークも可)手入力スタッフは全員在宅作業
- ・リスピークでは音声から字幕への情報再現が難しい場合に手入力方式を選択



J SPORTSの字幕放送の取り組み ②

■ 生字幕放送の制作体制(音声認識方式)

運用管理スタッフ2名。字幕制作設備と制作スタッフを外部委託する体制構築で運用管理の負担を軽減させています



リスピーカー



スポーツ中継番組で活躍する若手スポーツ実況アナウンサーをリスピーカーに起用(20名程度)

スポーツ実況アナウンサーとして競技用語、選手名などの知識が一般人より豊富
発声トレーニングを積んでいるので文字変換率が高い…など
運用管理者の**リスピーカーの知識、技術教育の負担が軽減**

社内番組制作部門、各アナウンサー事務所と連携して次世代のスポーツ実況アナウンサー育成の場にもなっています

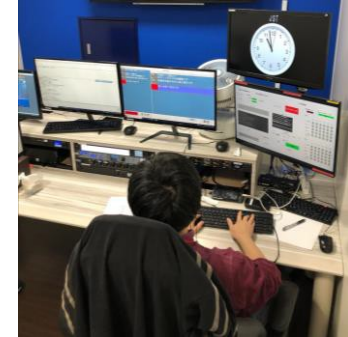


文字修正者



&

音声文字変換/
文字修正機材



(株)フェイスの音声文字変換/修正機材と文字修正を業務委託
設備を持たない社内生字幕制作体制を構築

文字修正、用語辞書登録作業もフェイス社に委託
フェイス社内でトレーニングを積んだスタッフがJ SPORTS字幕室に来社して対応
運用管理者の**文字修正者の知識、技術教育の負担を軽減**

従来、管理者の負担だった設備、文字変換辞書メンテナンス作業はゼロになっています

ディレクター



多くの生字幕放送運用の実績を持つ(株)放送映画製作所社が
生字幕のディレクションと制作資料、文字変換辞書データ作成を担当

ディレクターが生字幕の事前準備、スタッフへの情報共有、生字幕中のチェッカー、
事後の字幕データ編集等 すべてを担当
管理者は運用の進捗管理のみ行います

送出制御



**自動送出、自動消去、表示位置固定のため
無人運用**

CM入り時はリスピーカーが簡単な締めコメントを
自作してリスピーク〜放送内で送出完了させる